

# 桑野塾

桑野塾 検索

<http://deracine.fool.jp/kuwanojuku/>

大学などの研究者に限らず、興味を持って研究していることを自由に発表しあう「広場」です。どなたでもご参加いただけます。それぞれの興味が少しずつ重なり合うことで、新たな知見を見いだそうという場です。

## 第41回

2016年 11月19日(土)  
15:00 ~ 18:00

早稲田大学 早稲田キャンパス16号館 820号室

★ どなたでもご参加いただけます。会場に直接お越しください。 **参加無料**  
☆ 終了後、近くの居酒屋で懇親会を開催します。(飲食費は別途)  
※予約の都合上、懇親会参加をご希望の方はなるべく事前にご連絡いただくと助かります。  
※報告者・タイトルは変更の可能性もあります。ご了承ください。



## 南ロシアのステップに魅了されて・・・

報告者：鴨川 和子



### 南ロシアの土中に眠るものたち

黒海・アゾフ海・カスピ海に接する南ロシアのフィールドワークに20年以上参加してきた。アゾフを起点とし1994年からほぼ毎年、南ロシアでロシア連邦科学アカデミー南方科学センター、ロストフ大学、各地の博物館の考古学者、古生物学者らと生活を共にしながら、現地での発掘にも参加。また古生物、考古学の出土品が展示・所蔵されている各地の博物館をつぶさに訪ねてきた。

貴重な写真を紹介しながら、黒海北岸に点在する古代ギリシアの植民都市址、そこからの出土品、スキタイ・サルマタイなどの騎馬民族の遺宝、また南ロシアの歴史・文化・生活を紹介します。

南ロシアはチェーホフ、ショーロホフの生地のあるところ。1935年に一人のヤボンカ(日本人)が南ロシアのコサックの地を訪れ、コサックの民族祭り、狩りに参加している。その名はショーロホフと交流のあった阿部よしゑさん。——日本でもロシア国内でも南ロシアを長年、広範囲に亘っての取材はいまだにない。



静かなるドン河の恋の始まり



トロゴンテリーゾウ(マンモス)の全身骨格



発掘風景



発掘された装身具



●鴨川 和子(かもがわ かずこ) 東京浅草生まれ。1972年モスクワ民族友好大学卒業後、ノーボスチ通信社東京支局記者。1997年民族友好大学研究生。1980・85年まで大学院生としてソ連邦科学アカデミー民族学研究所でP・プチコフ教授、S・ワインシュテイン教授に師事。1985年同研究所で学位(D, ph)取得。専門分野—ロシア少数民族、歴史、文化など。新潟ロシア村・マールイ美術館館長、ユーラシア学術・文化研究所所長、現在フリー。  
著書：『ソ連の女たち』(すずさわ書店)、『モスクワ暮らし—市民から見たペレストロイカ』(朝日新聞社)、『トゥワー民族』(晩聲社)、『南ロシア 草原・古墳の神秘』(雄山閣)など。共著：『世界の民—光と影』(明石書店)など。

●問合せ・申込み：大島幹雄(おおしま・みきお) E-mail: izj00257@nifty.com / 電話：090-2207-8185